

リスクアセスメント & 作業手順書

工事名称	2020年度 東海北陸自動車道 高山管内維持修繕業務		作成会社名	中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋㈱	
工期	令和3年5月11日 ~ 令和4年3月31日		作成者	鈴木 悠平	
作業名称	防護柵、フェンス撤去	作業手順書	作成年月日	令和3年5月10日	
使用機械 使用設備 (具体的な名称・ クラスを記す)	3トラック、ユニック		改正年月日		
使用工具、機器 材料等(具体的な 寸法を記す)	眼鏡レンチ、スパナ、インパクトドライバー、ラチェット、帯ロープ、脚立、大ハンマー、		現場責任者		
	枕木、ワイヤー		協力会社	会社名 -	
保護具	ヘルメット、手袋、保護メガネ		作業順序	1	現地確認
	自動車運転免許証 振動工具			2	準備作業
免許・資格等 (免)(技)(特)(準特) の区別を記す	作業責任者 1人、作業員 4人、保安員 3人		3	防護柵撤去	
	合計 8名		4	フェンス撤去	
作業人員 (当作業に関わる役 割と人員を全て記 す)	作業責任者(職長)	周知会実施日	5	後片付け	
	(役割を確認してこの作業に関わる 全員が自筆サインする)		令和3年5月10日	6	
作業手順 周知会 参加者 サイン (記録)			7		
			8		

リスクの見積り	重大性			組み合わせ	リスクの評価	優先度又は実施担当者
	○:軽微 休業4日未満	△:重症 休業4日以上	×:極めて重大 死亡・障害を伴う			
可能性	○:めったに発生しない (5年に1回程度)	○○	○△	○○	1:極めて小さい	関係者に対策の周知
	△:時々発生する (1年に1回程度)	△○	△△	○△、△○	2:かなり小さい	関係者に対策の指示
	×:かなり発生する (6ヶ月に1回程度)	×○	×△	○×、△△、×△	3:中程度	職長が確認
				△×、×△	4:かなり大きい	工事担当責任者が確認
				××	5:極めて大きい	十分に訓練をした対策が必要

リスクレベル 5=十分に訓練をした対策が必要 4=工事担当責任者が確認 3=職長が確認 2=関係者に対策の指示 1=関係者に対策の周知

作業項目	手順	急所	リスクの洗い出し	可能性	重大性	評価点	リスクレベル	ミス・ロス	リスクの除去・低減のための実施すべき事項の特定(防止対策)
(誰が)	主なステップ	作業のポイント	(予想されるミス・ロス)						
現地確認(全員)									
	作業箇所確認	危険ポイントの確認							
	周辺安全確認	構造物の確認							
準備作業(全員)									
	ミーティング	健康状態の確認 免許・資格等の確認							
	車両の点検・準備	車両の始業前点検、 工具の確認							
防護柵撤去 (責任者、作業員)	防護柵撤去箇所に付近に ユニックを据え付け、アウト リガーを張り出す。	アウトリガー張り出し	アウトリガーが十分に張り出しておらず、ユ ニックが転倒する。	△	×	△×	4		足場を安定した場所にアウトリガーをしっかりと張り出す。
	帯ロープを防護柵の重心 に結び、ユニックのクレー に玉掛けを行う。	玉掛け注意	吊り上げた際に防護柵が傾き、人に接触す る。	△	△	△△	3		地切りを行い重心を確認してから、荷台に乗せる。
	インパクトドライバーを使用 し、防護柵を支柱から外 す。	手元注意	防護柵と支柱の隙間で手を挟む	△	△	△△	3		手袋を着用し作業する。
	防護柵を荷台に乗せる。	手元、足元注意	防護柵で隙間で手や足を挟む	△	△	△△	3		手袋、安全靴を着用し作業する。
		合図者	操縦者が合図者の指示に従わず、人や物 に接触する。	△	×	△×	4		合図者、操縦者を定め、吊り荷の下に入らない
	防護柵支柱にワイヤーを 巻き付け、ユニックで支柱 釣り上げ、荷台に乗せる	玉掛け注意	支柱がワイヤーから抜け、人や物に接触す る。	△	×	△×	4		不安定な場合は一度地面に下ろし玉掛けしなおす。
フェンス撤去 (責任者、作業員)	撤去するフェンスの両端の 支柱付近に脚立を設置す る。	足場注意	脚立が転倒し、けがをする	△	×	△○	4		脚立の足元でしっかりと支える。
	インパクトドライバー等を使 用し、フェンスをボルトを外 す。	手元注意	防護柵と支柱の隙間で手を挟む	△	△	△△	3		手袋を着用し作業する。
	フェンスの片側から帯ロー プを結び吊り荷台に乗せる	玉掛け注意	吊り上げた際に防護柵が傾き、人に接触す る。	△	△	△△	3		地切りを行い重心を確認してから、荷台に乗せる。
後片付け (責任者、作業員)	清掃	破片、工具等が残っている							